

多文化共生社会づくり推進事業報告書

1 委託業務名・概要

(1) 業務名 アフタースクール事業

「みんなAMIGO～いしまで手をつなごう～」

(2) 概要（事業の要約・事業の目的など）

県営東浦住宅には約千世帯(三千人)が居住している。そのうちの約四百世帯(九百人)が外国籍の住人である。石浜西小学校には92名、東浦中学校には27名のブラジル・ペルー・ボリビア・チリ等の外国籍児童・生徒が在籍している。これら外国人児童・生徒及びその保護者を対象に日本語・ポルトガル語・教科等の学習支援、学校生活における教育相談と卒業後の進路相談、そして、親子のふれあいや食生活等の日常生活支援事業をグループ「いしま」のメンバーが計画・実践した。

2 実施事業について

実施時期

(1) 平成18年7月1日(土)～平成19年2月28日(水)

(2) 実施地域 知多郡東浦町

(3) 事業の具体的内容

日本語・ポルトガル語・教科等の学習支援

ア 日本語・ポルトガル語講座の開設

石浜西小学校の空き教室を利用して、希望する外国籍児童と日本人児童を対象に毎週水曜日の授業後に講座を実施した。団地内に居住する外国籍のボランティア(女性3名)が講師を務めている。低学年と高学年の2クラスにわけて1回60分の講座を実施した。

開催回数	参加人数	講師数	主な内容
1学期 1回 7/5,	毎回 31名	3名	日常の日本語・ポルトガル語の会話等
2学期 10回 9/13,20,27,10/11,11/8,15,29, 12/6	毎回 28名	3名	日常の日本語・ポルトガル語の会話等
3学期 4回 1/17,31,2/14,21	毎回 25名	3名	日常の日本語・ポルトガル語の会話等

イ 長期休業中の学習支援(7/24,25,26,27,28,8/25,29,30、12/25,26)

夏季休業中は県営東浦団地の集会場を利用して8日間、冬季休業中は石浜西小学校を利用して2日間、毎回午前9～12時まで児童・生徒の学習支援活動を実施した。

夏季休業中の学習支援は、学習支援者を地域に呼びかけたところ、団地や地域の住人が多数参加してくださった。そして、東浦中学校教員・石浜西小学校教員あわせて約十数名が毎回指導にあたった。夏休みの宿題、各教科の学習、習字等の内容を支援した。約70名前後の児童・生徒が毎回参加した。

冬季休業中の学習支援は、学期中と同じ内容を実施し、各回約25名程度の参加があった。

教育相談活動

ア 中学生の進路指導

8月25日(金)19時から、県営東浦団地の集会場を利用して中学生とその保護者を対象として高校受験対策に対応する支援を実施した。外国籍の生徒と保護者10名が参加した。

東浦中学校の教務主任と進路指導主事が中学校卒業後の進路についてスライドを利用して公立高校・私立高校・専門学校等の詳しい説明をした。説明終了後は、今後どのような学習をしていくとよいか、さらに詳しい情報を得るためにはどうしたらよいか等、個人懇談に応じた。

なお、個別の進路指導・相談を適宜実施した。

イ 小学生の進路指導

2月20日(火)9時から、石浜西小学校のオープンスペースで、6年生児童48名(うち外国籍児童14名)と希望の保護者を対象に進路学習会を実施した。

日本の学校の仕組みについて、石浜西小学校日本語適応教室教員と愛知県ブラジル人語学相談員がスライドを利用して詳しい説明をした。

親子のふれあいや食生活等の日常生活の見直し

ア 親子のふれあいや食の大切さ

共稼ぎ家庭、ひとり親家庭が大変多い地区である。児童がまだ就寝している時間に出勤する家庭も少なくない。このため、十分な朝食が用意されていないため、朝食を食べずに登校する児童もいる。また、保護者の帰宅時間も遅く親子で夕食をとる時間もかなり遅い児童も多い。

そこで、食などを通して、親子でふれあうことができる時間と場の設定を考えた。また、児童が一人で簡単に朝食などを自分で準備すること

ができるようにと考えた。

土曜日の午前10時から12時の2時間、石浜西小学校の家庭科室やコンピュータ室等を利用し、小学生の児童とその保護者の希望者を対象として次の活動を実践した。

回	活動月日	参加人数	活動内容
1	7月8日	36名	親子で作ろう日本の朝ごはん
2	7月15日	38名	親子で作ろうブラジルのおやつ
3	9月16日	32名	親子で作ろうブラジルの朝ごはん
4	10月28日	103名	親子でバーベキュー
5	12月16日	31名	コンピュータでクリスマスカードを作ろう
6	12月26日	45名	ブラジルのクッキーづくり
7	1月20日	20名	親子でバードウォッチング
8	2月17日	28名	親子で作ろう日本の朝ごはん

12/26は1時間。ポルトガル語講座等と併せて実施。

イ ミニアフタースクールの活動

下校後、児童は団地の公園でボール遊びなどや部屋でゲームを楽しんでいる。そこで、児童の生活を豊かなものにするため、このミニアフタースクール活動を通して趣味や体力向上を図り、日常生活を見直すことができることを願った。

毎週月曜日の授業後15時から17時の2時間、4年生以上の希望する児童を対象に石浜西小学校でミニアフタースクールを開校した。(低学年の児童は、児童館の児童クラブに所属している。)

児童の指導については、ボランティアとして募集した保護者が毎回10名ほど参加した。4年生以上の三分の一約50名前後の児童が毎回参加し、2月末まで22回実施した。

活動の場所	活動の内容
体育館	バドミントン ソフトバレー バスケットボール 卓球 ダンスの練習など
運動場	サッカー 一輪車 竹馬 遊具遊びなど
コンピュータ室	インターネットを利用した各種検索など
図書館	宿題 読書など
オープン スペース	読書 紙工作 将棋 ビデオでアニメ鑑賞 手芸 オセロなど
理科室	工作 線香花火づくり 理科実験など
家庭科室	おやつづくりなど

ウ 「いのち・こころ」の指導

保健指導の専門である岐阜大学地域科学部教授の近藤真庸先生を講師として「いのち・こころ」の指導を石浜西小学校において実施した。
1月18日(木)4年生以上の児童約150名と保護者が参加した。

3 実施結果（実施の効果等）

(1) 日本語・ポルトガル語講座実施の効果

日本で誕生して、日本の保育園に通い小学校に入学している外国籍の児童は、半数以上を占めている。家庭では保護者とポルトガル語で会話をしている児童も学校では日本語で授業を受けている。母語のポルトガル語が不十分な児童が多いのが特徴である。外国籍児童の三分の一は帰国を希望している。しかし、現在の語学力では、母国語でも十分な生活ができないと思われる。また、日本の児童もポルトガル語に興味を持って参加する児童が出てきた。このポルトガル語講座は以下の効果を児童にもたらせている。

- ・ポルトガル語の読みが、できるようになってきた。
- ・共稼ぎが多く、親とのふれあいの時間が十分ではない家庭が多く、親に教えてもらわないポルトガル語を勉強できる。
- ・日本の児童とともに学習することで相互理解をするよい機会となっている。
- ・授業後の十分な課外活動ができています。

(2) 夏季休業中の学習支援実施の効果

地域にボランティアを募集したところ、団地の住人の方や団地以外の地域の方が参加してくださった。児童・生徒の先輩（近くの県立高校に進学している男子高校生）もボランティアとして毎日参加していた。地域ぐるみの取り組みができてきた。また、保護者が児童の様子を見学に来たり、冷たい飲み物を差し入れてくれたりと保護者の関心が高まってきた。

学習会の最終日に児童・生徒とボランティアにアンケートをとった。以下はその一部である。

参加した児童・生徒の声

- ・先生や友だちが、親切にわからない問題を教えてくれました。
- ・友だちと仲良く勉強ができました。
- ・家の人「がんばったよ。」とほめてくれました。うれしかったです。
- ・勉強はきらいだけど、ここで勉強ができてよかったです。家ではなかなかできません。
- ・宿題がたくさんできました。うれしいです。来年もやりたいです。
- ・いつもより早く宿題が終わりました。うれしかったです。

- ・先生やボランティアの人にお世話になりました。ありがとうございました。夏休み以外にも、このような学習会をやってほしいです。
- ・もう少し、多くの日をこの勉強会に当ててほしいです。
- ・数学の勉強がとてたたくさんできました。学校で学習しているときよりよく理解ができました。
- ・休憩の時間に、冷たいお茶が出てすごうれしかったです。
- ・高校生の先輩が進路のことも教えてくれたのでよかった。
- ・もっと頑張っって高校に進学をしようと考えた。

参加したボランティアの声

- ・初めてボランティアとして参加しました。子どもたちはまじめに宿題をやっていました。少しはお役に立つことができました。
- ・去年は外国籍の子だけでしたが、今年も日本の子もたくさんいました。
- 仲良く一緒に勉強していて、とてもよかったと思いました。
- ・子どもたちはとても素直で、一緒にいる時間がとても楽しかったです。

(3) 中学生の進路指導支援の効果

今後にも日本に定住をしようと考えている保護者も多く、生徒の進路については大変関心をもっている。中学校卒業後、どのような進路があるのか、どこの高校を受験できるのか、私立高校や専門学校はどのような学習をするのか等の質問も多く出された。

また、経済的に十分なゆとりがないため、授業料を心配する保護者も少なくない。この進路説明によって、卒業後の進路システムが理解できた。

(4) 小学生の進路指導支援の効果

「10年後のあなたは、どこで何をしていますか?」「あなたは将来、どんな仕事をしたいですか?」と、6年生に聞いても半数以上の児童は答えることができない。今年度初めて6年生と保護者を対象として、中学校卒業後の進路について具体的に指導をした。

6年生のどの児童も興味を持って聞くことができた。そして、中学校を卒業してからどのような進路が待っているのか理解することができた。平日の2限目の授業で、参観した保護者は10名ほどであったが、小学生対象のこの進路学習会は、児童にとって将来の「夢」を考える大切な学習となった。

(5) 親子のふれあいや食生活等の日常生活の見直し支援の効果

この活動は土曜日の午前に親子で参加することを目標とし、親子のふれあいを第一に考えた。また、「食生活」に関する基本的な知識を知らせることも目標とした。

外国籍の両親は家族をととても大切にしている。子どもたちを大変かわいがって育てている家庭が多い。親子で「朝ごはん・おやつづくり」には、家族全員で参加する家庭もみられた。そして、十分な朝食を食べて一日をスタートする大切さを理解できた実践であった。

(6) ミニアフタースクールの活動支援の効果

月曜日の授業後は職員会議等の会議が毎週設定されている。このため、課外クラブもなく、体育館や運動場は空いている。そして、両親が共稼ぎの家庭も多いため、授業後の児童の居場所作りとしても十分に効果があった。4年生以上の全児童に呼びかけると、約三分の一の児童が参加した。授業後に学校に残り友だちと好きなことをして過ごす楽しさ、異学年とのふれあい等多くの効果を見ることができた。

児童はこのミニアフタースクール活動を通して、趣味や体力向上を図り、日常生活を見直すことができた。また、毎回10名ほどの保護者のボランティアが指導者として参加してくださった。学習参観では見ることがない児童の姿を見ることができてよかった、児童と一緒に運動ができてよかった等の声を聞くことができた。

(7) 「いのち・こころ」の指導支援効果

いじめ問題・友だち関係を例にして「いのち・こころ」について、児童にとって大変わかりやすい内容であった。

4 事業の特質（工夫した点など）

- ・外国籍児童生徒の将来を考えると、母語の大切さが第一に出てくる。日本に定住するにしても、帰国するにしても母語は重要である。家庭で日常会話程度しかできない児童生徒がどこでどれだけ母語を学習できるか疑問である。そこで、小学生に母語の学習をさせたいと考えポルトガル語講座を開設してきた。
- ・夏季休業中の学習会では、外国籍児童生徒だけではなく日本の児童生徒にも参加を呼びかけ交流ができるように努めた。また、家庭から近くの場所が参加しやすいと考え、団地内の集会場を学習の場とした。学習支援のボランティアを地域全体に募集し、多くの人々と児童・生徒が関わりを持つことができるように工夫した。
- ・外国籍の児童・生徒と保護者は日本の生活に対して不安を抱いている。そこで、保護者も一緒に参加できる企画を考え、「親子で に参加しよう」と呼びかけた。
- ・中学校卒業後の進路については、中学校で学習する。小学生にとっても大変重要な学習であり、先を見通した将来設計を家族で考えさせたい思いから小

学生対象の進路学習を設定し保護者にも参加を呼びかけた。

- ・ミニアフタースクールでは、多くの児童が安全に楽しく参加できるように、その活動内容と場所を工夫した。また、多くの保護者にボランティアの参加を呼びかけ、ボランティア活動の意義ある体験をしていただくこともねらいとした。

5 今後の課題

- ・今年度の事業が次年度も継続していくことができるよう組織を強化していく必要がある。
- ・児童生徒だけの活動ではなく、保護者や地域も巻き込んだ活動を増やし、その理解も深める必要がある。
- ・児童生徒が将来を具体的に考えることができる進路の学習会の充実を図っていくことが必要である。
- ・学校だけが情報を提供するのではなく、地域の住民と協力して取り組むことで保護者の理解を更に深める必要がある。
- ・多文化共生が地域全体に浸透するためには、地域住民を取り込んだ大きなイベントを開催する必要がある。

6 その他参考事項

【発表】

平成 18 年 11 月 2 日(木) 東浦町現職教育研究会で発表

【視察】

平成 18 年 12 月 14 日(木) 愛知県立大学中島和子教授・山本かほり助教授の視察

平成 18 年 12 月 19 日(火) 鳴門教育大学小西教授他多文化共生事業の視察

平成 18 年 12 月 26 日(火) 愛知県議会地域振興環境委員会県内調査
(多文化共生事業の視察 県会議員 15 名)

平成 19 年 2 月 9 日(金) 国土交通省による多文化共生事業の視察

平成 19 年 2 月 14 日(水) サンパウロ大学 松原礼子助教授他視察

【大学との連携】

愛知教育大学 岡田康代教授・中田敏夫教授・学生による外国籍児童の
学習支援

名古屋外国語大学大学院生による学習支援

【マスコミ等の取材】

平成 18 年 7 月 3 日(月) 文部科学時報(文部科学省)取材

平成 18 年 11 月 2 日(木) 悠(ぎょうせい)取材

平成 19 年 2 月 7 日(水) 「和楽器(琴)にふれよう」中日新聞取材
(参考)平成 18 年 6 月 23 日(金)

ワールドサッカー ブラジル対日本 親子で観戦

(於：石浜西小体育館)

中日新聞・東海TV・NHKTV・中京TV等各社

【他校との交流】

6 月～12 月

ピタゴラス愛知校(刈谷市)が来校